

土 浦 市 議 会 新 勇 会

行 政 視 察 研 修 報 告

1. 期日

令和5年7月31日（月）～8月2日（水）

2. 視察地・テーマ

長崎県佐世保市：地域資源を生かしたまちづくりについて（佐世保市都市計画マスタープランについて）

福岡県大野城市：大野城市歴史文化基本構想について

長崎県西海市 ：ゼロカーボンシティ（脱酸素社会に向かうまち西海市）について

3. 目的

- ① 本市では現在都市計画マスタープランの策定中であり、開発及びまちづくりの他市の事例を研究し、反映させる必要がある。

佐世保市は軍港として栄え、文化財等も豊富な地域資源に恵まれている。本市においても地域資源を有効に取り入れたまちづくりを行うにおいて、参考としたい。

- ② 大野城市は、鎌倉時代に外国から国を守るための拠点とした重要な土地であり、歴史的、文化的にもかなめの地であった。本市も鎌倉時代から御家人の小田氏の治める領地で、戦国時代は南朝方の拠点であった。江戸時代は老中土屋家の領地であり、歴史文化においても多くの資源を有している。

他市の歴史文化基本構想を学び、中心市街地に亀城公園という城路の資源を有効に活用できるよう参考にしたい。

- ③ 本市で一番遅れている分野がゼロカーボンシティの取り組みである。比べて四国や九州においては新電力を含め太陽光、風力などの取り組みが充実している。新技術の導入を含めて、脱炭素の取り組みを土浦市政に反映させたい。

4. 主な質疑

佐世保市質疑

【鈴木】

Q 駅近くのICから駅までの時間

A 佐世保港ICから5分

※スマートICの誘導は土浦中心市街地へ

Q 水害・土砂災害の想定、空き家が多い理由

A H27 空き家実態調査によると、斜面地は道路が狭いため広い場所に移った（市内移住）

【田中】

Q サルクシティ403の民間に対する支援

A 各商店街の努力により市の支援はなし（民間が元気である）

Q 朝市に対する支援

A 市の土地で朝市

【菅井】

Q 一時預かり施設の需要

A 公的な預かり施設を増やすのは今後の課題

【島岡】

Q IR 誘致に関して住民の意見

A 大阪のような反発は少ない。少数の反対者はいる。

大野城市質疑

【田中】

Q 文化財関連団体を増やすことに対して市からの助成は

A なし（今現在）

遺跡を使ったイベント支援協力という形で

西海市質疑

【島岡】

Q 西海市はガソリンスタンドの廃業は多いか

A 再生可能の普及と併せて従来の燃料店の支援も考えている

【田中】

Q 西海市の非常用発電でディーゼルはないか

A 重油＋再生可能エネルギーは準備してある

【鈴木】

Q 洋上風力発電等の事業者側から積極的提案があったのか

A 洋上風力発電は 10 年前から計画があった。風力に適した立地と離島対策 J パワー（火力発電）の動きと企業の取り組みに市が乗った

Q 水素発電の導入において水素の確保について

A まだ具体化していないが、水素のガス化システムについて企業が研究している

Q 取り組みが電気料金に反映されているか

A 一般の供給系統に入ってしまうので現在は無理であるが企業と交渉研究中

5. 感想

【鈴木一彦】

佐世保市都市計画マスタープランについては、傾斜地が多く道路が狭いために古くからの市街地に空き家が増えてきた。多くの住民は傾斜地から平坦な部分への移住が増えている。佐世保市は文化財や歴史的な資源が豊富でそれらを活用したまちづくりに取り

組んでいる。市役所近くに高速道路のＩＣも整備されているため、交通網の整備においても有利である。土浦市においても矢塚地区にスマートＩＣが整備される予定であり、その周辺の開発が急務であり佐世保市のまちづくりを参考にすべきであるとする。

次に大野城市歴史文化基本構想については、古くから朝鮮半島からの外敵の襲来に備えた、軍事的拠点のまちであり、城周辺の歴史的文化遺産を生かしたまちづくりに取り組んでいた。土浦市の長年の課題である中心市街地の活性化に欠かせない要素が亀城公園を中心とした街づくりと考える。歴史と文化を生かした基本構想は十分に参考になった。

最後に西海市のゼロカーボンシティの取り組みであるが、風力発電という地理的な優位性を活かした発電技術と、新たに水素発電などの脱炭素社会の実現にむけての調査研究が進んでおり、土浦市も学ぶ点が多い。土浦市においては、ゼロカーボンシティ実現に向けての具体的な取り組みが遅れているので、今後積極的に新技術の研究を行うべきである。

【島岡宏明】

3つの自治体の取り組みを研修してきましたが、まちづくりの基本構想において2つの自治体の事例は共に歴史、文化などの地域資源を十分に活かした計画が策定されました。本市において現在、都市計画マスタープランの策定が最終段階を迎えており、それに基づいた地区計画の策定に入っていくところです。本誌の弱点は市街化調整区域が多く地区計画により工業地域や準工業地域の位置付けを的確に行うことが市長の企業誘致の政策と一致してきます。他市の先進的な事例を反映させた計画を今後策定すべきであると思います。

ゼロカーボンシティについては、私は燃料屋でもあり新エネルギーへの転換については非常に興味のある分野ですが、特にガスを使った発電は積極的に取り組んでいく必要があると考えます。燃料の元となる成分に炭素（C）が含まれていなければCO₂の発生はなくなるので、エネルギーの転換は未来に向けての必要な要素であると考えます。

田中 義法

佐世保市では駅や市内中心地近くに IC の出入口があり、市内への乗り入れが凄く便利に思えました。

今計画しているスマート IC を高速道路近辺に出入口を作るだけでなく、駅近くまで延伸するようにすると、中心市街地に人が集まりやすく市内に来やすくなり活性化すると思います。

又、大野城市においてはこれからも文化財を十分にいかしていただきたく考えます。

土浦市でも文化財関連に沿ったイベント開催、まちづくりの取り組みに協力してもらえる団体等には助成金の活用を推進しドン！ドン！市民の目を引くような市街地活性化に PR していければ良いかと思いました。

最後に西海市のゼロカーボンシティへの取組ですが、私の会社でも非常用発電設備の工事を行っていますが、今はディーゼル発電機がまだまだ主流ですが、脱酸素の新エネルギーを活用したゼロカーボン目指して再生可能エネルギーの導入、省エネの推進など土浦市も二酸化炭素の排出を減らすことを目指して行きたいです。

【7/31～8/2 視察についての考察】

《佐世保市》

山と海に囲まれており世界で美しい湾、九十九里島としてリアス海岸と多くの島が織りなすリゾートとして大変美しい景観に、訪れるとまたこの景色を見て観光したいと思える環境に魅了されました。ホームページからは地域をエリア別やテーマ別、ライター別に選択して検索することにより様々なブログが見ることが出来る工夫もされており、見ていて楽しめる内容が大変参考になりました。また、LINE、X、InstagramをはじめとしたSNSも多数取り入れており、若者が旅をする際に参考にすることも多いと感じ、写真の撮り方や見せ方が素晴らしいものでした。アピールポイントをしっかりとアピールしていくアピール力を真似したいと思います。

《大野城市》

大野城心のふるさと館では、様々な展示やイベント活動、歴史的文化がその場に凝縮されており、平日の昼間に関わらず賑わいがありました。館内には大きなモニターに映る自分を動かしてゲームを行えるスペースや、一部に特設会場を設け、ミニチュアライフ展という期間限定イベントが実施されており、巨大なブロッコリーのモニュメントや、待ち針の観覧車、キッチン用品で造られたおしゃれな街並みなど、小さな夢のような作品はずっと見ていられるほど繊細な作りでした。平日の放課後や夏休み等の長期休みも市の施設で毎日たくさん楽しめる内容が盛り込まれていることで飽きがなく親子で様々な体験が出来ることは素晴らしいと感じました。土浦市でも取り入れていけると地域の活性化に繋がりが盛り上がっていけると思うので参考にしていきたいと思います。

《西海市》

ゼロカーボンシティ「脱炭素社会に向かうまち西海市」として2021年の表明時から様々な取り組みをしていることがわかりました。風力発電の推進や火力発電所の新技術導入、グリーン産業の推進、各分野におけるCO2削減等、市民と企業、そして行政が取り組みを強化し、一丸となって脱炭素ドミノを巻き起こそうとしている熱意が感じられました。また、西海市役所本庁舎等の29施設でCO2フリー電気に切り替えているとのことで、この切り替えにより二酸化炭素排出量を年間980t削減することになることを学びました。これらの取り組みを小中学生向けに出前講座を実施したり、メタバースと脱炭素を掛け合わせることで市民の意識改革にも力を入れており、今後の動きを再度参考にすべくまた行政視察として訪れたいと考えます。